

名古屋市環境科学調査センター 環境科学室

今回紹介するのは、愛知県名古屋市にあります名古屋市環境科学調査センター環境科学室です。昭和46年に公害研究所として発足し、その後、環境科学研究所と改称され、平成24年に公害総合監視センターと統合して、名古屋市環境科学調査センターとして現在に至ります。大気汚染、水質汚濁、騒音振動等の測定、試験検査、調査研究を行う部門として環境科学室があります。大気担当は現在5名です。

【主な業務】

大気担当の主な業務は、市民からの苦情による粉じん等の調査、有害大気汚染物質モニタリング調査、微小粒子状物質(PM_{2.5})成分分析調査、酸性降下物調査、解体現場周辺のアスベスト調査、未規制有害化学物質監視調査、化学物質環境実態調査、熱田神宮のヒートアイランド緩和効果調査などがあります。市民からの苦情の調査は、保健所から連絡があれば、最優先でサンプリングに出かけ、その調査結果を市民の方へ直接説明に行くこともあります。酸性降下物調査では、全国環境研協議会東海近畿北陸支部の共同調査に参加し、広域的な汚染実態の解明に努めています。

【調査研究】

通常業務の中で出てきた課題や新たな環境問題は、調査研究として取り組んでいます。PM_{2.5}は平成15年から成分分析も含めて通年観測を行っており、得られたデータは健康影響調査やモデルの検証にも使われています。また、国立環境研究所や地方環境研究所と共同で、PM_{2.5}の環境基準超過をもたらす汚染機構の解明に関する研究を行っています。生産・販売に伴うCO₂排出量に関する研究では、ライフサイクルアセスメント手法を用いてCO₂排出量を算出し、商品への表示化と消費者の購買行動の変化を調べています。また、過去の粉じん苦情で採取したサンプルを、今年導入した電子顕微鏡により再分析し、データベース化を目指しています。また、名古屋大学、名古屋市立大学、名城大学などの地元の大学とも共同研究を行っています。

【環境学習】

環境学習にも力を入れています。夏休みに4日間行うかんきょう実験スクール、小学校などへの出前講座、大人対象のなごや環境大学共育講座など、いろいろな講座・教室を開いています。室内で行う実験だけではなく、公園などいろいろな場所で気温を測って、ヒートアイランドを考えるプログラムなども実施しています。

前身の名古屋市環境科学研究所は4年前に廃止案が出されましたが、市民をはじめ多くの方が存続を求めました。業務の見直しや人員削減を経て、現在の名古屋市環境科学調査センターとなりました。市民の健康と安全を守るために我々ができることは何か。真の市民のためのセンターになるべく、私たちは変わらなければなりません。この大きな課題を常に念頭に置き、日々の業務を行っていきたいと考えています。
(環境科学室 山神真紀子)



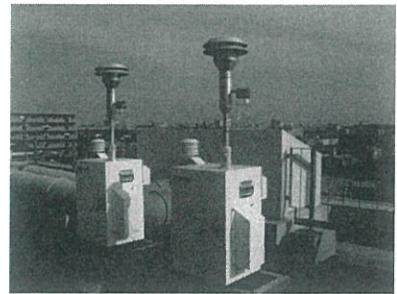
名古屋市マスコットキャラクター
なごやジョウの【エビザバス】



名古屋市環境科学調査センター



名古屋駅前でのNOx測定



PM_{2.5}サンプリング



環境学習で気温測定